

## 天声人語

福島の18歳、渡辺智広さんが一票への心情を詠む。〈選挙権初めて投票してみたがまだ、私には早かつたみたい〉。早くなんてないから、次もその次もぜひ投票してください。昨年も地震や豪雨が各地を襲った。台風来て電車止まると期待した小さい自分に被害で気づくと詠んだのは長野の高1佐々木優果さんだ。東洋大学が募る「現代学生百人一首」が30回を迎える。作品は累計130万首を超えた。今回の入選作を一部紹介したい。おもしろい友とのメールで「笑」の文字それ打つ自分笑つておらず、高尾みずき。人付き合いで空気を読んで、もやもやするのは大人も変わらない。君からの通知がないか確かめる10分ごとに重なる指紋。池内絵美香。スマホを手に、キュンとする。夜明け前から頑張る。3時起き搾乳をしてしばれる手牛のぬくもり私の力イロ。安藤朱生。何かと忙しいけれど、疲れをためすぎないで。目がうつろ磁石みたいに眠たくてSが机でNがおでこだ。川波美咲。相当すてきなおじいちゃんである。へ土曜授業いつも見に来るうちの祖父今じやすつかりクラスの一員。長嶋凜。親との距離が変わってゆく。両親と議論して、論破した次から誰を頼ればいいの。赤羽佑太。孤独になり、迷い惑う時間も若者を強くする。誰もいないある教室で独学の辛い気持ちを鉛筆は見てる。劉婧彤。くるくるとコーヒーを一口呷りながら転がり、道はやがて見えてくる。

2017・1・15